

ただいまあ

第42号

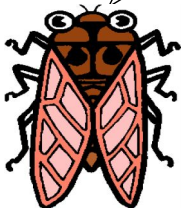
平成23年9月12日(月)

校長 中島 安行

「普通の暮らし」ができる幸せ

※昨日は、3. 11と9. 11の節目の日でした。東北大震災からちょうど半年、そして米中枢同時テロから10年目。どちらも、これまで私たちが経験したことのない大惨事でした。そして、その傷あとは今も癒えることなく残っています。原発事故で福島県境の宮城県白石市から家族とともに福岡市に避難して来た女性は「同じ日本で(福岡市民が)普通の暮らしをしていることに驚いた」と言っています。家族が死亡・行方不明になったり、住んでいた家が跡形もなく流されたり、放射能汚染のため余儀なく遠くへ避難させられたり、風評被害のために肉や野菜などが売れなくなってしまったりした人々にとっては、半年経った今でも「普通の暮らし」にはほど遠い日が続いています。住む家があり、家族がそろっていて、毎日学校へ行き、好きな遊びやスポーツができるという「当たり前」のことが「当たり前」にできない人々がいるということを遠くに住んでいる私たちも忘れてはいけないと思います。放射能除染が未だに進まず運動場で満足に遊べない子ども達が多くいることも、大志小の子ども達に知っておいてほしいと思います。福島原発周辺の町を視察した新経済産業大臣が「死の町」と表現し「放射能をうつす」という趣旨の発言をしました。ちょっと前には「努力をしない者にはお金を出不さい」という横柄な態度の大臣もいました。相手の悲しみや辛さが分かっているならそんな発言は出てこないはずでしょう。この2人の大臣の問題発言を“反面教師”にして、子ども達に「人の痛みや辛さが分かる教育・しつけをしなれば・・・」と改めて思いました。

おめでとう、
児童生徒理科作品展
唐津支部入賞！
佐賀県

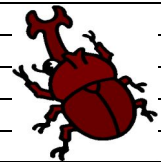


《特選》

2年	田邊 大晟	リンゴの色のかわり方をしらべたよ
4年	田邊 陸斗	紫外線の強さをはかってみよう

《入選》

1年	伊澤 立之身	虫のひょう本
1年	井本 幸希	虫のひょう本
1年	坂口 眞公	きょうりゅう
2年	沖田 桃香	三つ星バター
2年	鶴田 雪那	わたしのまんげきょう
3年	藤田 紫水	ミョウバンのけっしょうの作り方
4年	松岡 伊織	ペットボトルで水をきれいにしよう！
4年	南 明里	表面張力について
5年	川久保 直美	クモの生活 ～静かな日常と攻撃的な食事～
5年	岸本 倫	セミは減っている ～セミ減少のヒミツと原因について～
6年	美間坂 さき	酸性・中性・アルカリ性を調べるには どうすればよいか



着衣水泳で学んだことを生活に生かします

※遅くなりましたが、着衣水泳の感想の2回目です（1回目は37号）。着衣水泳により、子ども達は「水の恐ろしさ」と「命の大切さ」を身をもって学ぶことができました。この経験をこれからの生活に生かしてくれるようお願いしています。

- ・着衣水泳をやってみて一番すごかったのは海上保安庁の人たちの泳ぎが速かったことです。「さすが！！」と思いました。ほくはペットボトルを使わずに浮くときに、「がんばれ」とはげましの言葉をもらったので、3分間1回も足をつかず浮くことができました。おぼれている人がいる時は、“見て見ぬふり”をせず、だれか人がいないか、浮く物はないかをたしかめたいと思います。（6年 山村憲吾）
- ・着衣水泳の授業を受けて、ふだん飲み物を入れる以外に使わないペットボトルが、人を助けるため、自分のために役立つものだとして初めて知りました。そして、着衣水泳の授業を受けて最も大事だと分かったことは、「自分で助けに行ってもいけない」ということでした。ほくは泳ぎに自信があったから、それがなぜダメなのか分かりませんでした。でも授業を受けて、「いくら泳ぎに自信があっても、おぼれている人は助けに行くとかまってくるので泳げる者も絶対に泳げない」と言われました。だから助けに行くのではなく、浮く物を投げるのが一番いいと分かりました。（6年 波多江祐直）
- ・ほくが着衣水泳の授業を受けてまず第一に感じたことは、命を大事にしなければならないということです。もし海や川に遊びに行き友だちがおぼれそうになったら、何かペットボトルや浮き輪などの浮く物を投げたり近くの大人を呼んだり海上保安庁か消防署に連絡をしたりして助けなければいけない、ということ学びました。いくら泳ぎがうまくても服を着ていたら泳げません。ほくは泳ぐことが得意ですが、やはり服を着ていると泳ぎにくかったです。大志小学校全員が今回教えてもらったことを忘れずに、海や川では子供だけでは遊ばないように気をつけてほしいです。消防署のみなさん、海上保安庁のみなさん、着衣水泳の授業をしてくださって本当にありがとうございました。（6年 川原光太）
- ・私は、着衣水泳の授業を受けてよかったなあと思いました。理由は2つあります。1つ目は、洋服のまま水に入ると歩きにくいということが分かったからです。私は少しぐらいなら大丈夫！と思っていましたが、だんだん洋服が水吸って重くなり、足を動かすだけで精一杯です。これがもし川や海だったら流れがあるので泳げるはずがない、というのが分かりました。2つ目は、何にも持たずに浮くことができたからです。初めはペットボトルでもおぼれかけていましたが、消防士さんや海上保安庁の方が優しく教えてくださったので何もなくても浮くことができました。消防士さんや海上保安庁の方、私たちのために忙しいなか来ていただきありがとうございました。これからも、教わったこと、体験したことをもとに生活に生かしていきたいです。（6年 美間坂さき）
- ・7月19日。着衣水泳の日。その日は水の恐ろしさを思い知った1日となりました。ジーンズにスニーカー、長そでのTシャツという、よく冬に着ているファッションで着衣水泳にのぞみました。水にジーンズをはいた足をつけた瞬間、あまりの重さに足を上げられないほどになりました。「こんなにジーンズって重くなるの?!」と、恐ろしくなりました。全身が水につかり、泳ごうとすると、ジーンズの重さやTシャツの重さでうまく泳げませんでした。また、洋服がべたっと体にはりついて、そでを引っ張っても脱げそうにありませんでした。ペットボトルを使って浮いてみると足がどうしてもしずむのですぐ足がついてしまいました。最後に訓練の様子を見せてもらいました。おぼれた人がペットボトルで浮いていると、助ける人もしやすそうでした。優しく声をかけてくださり、でもすばやく救助をする・・・かっこよかったです。着衣水泳で学んだことを生活に生かし、周りの人にもしっかり教えて、水の事故を防ごうと思います。（6年 古舘春乃）

